

※各家墓所の改修時は

各家の墓所を大きく改修する時は、施工する石材店に工事をする上での注意事項などがありますので、寺にご連絡ください。なお、墓地を整備したため、十力所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お頒けすることができます。詳しい事は寺へ直接連絡ください。

※年忌法要後の食事は寺でもできます

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後のお食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で十八席。三階は畳に座布団で四十名くらいまで会食できます。お使いください。

※日曜の朝の坐禅会

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください、初心の方にも丁寧に坐り方をご案内します。三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時には終わりです。

※教養講座

【金つぎ教室】 日程 講師 花輪滋實
第三土曜日午後一時半～四時半まで

【仏像を彫る会】 日程 講師 高野竜生
午後一時半～四時半まで

原則として第二・四日曜日です。

【声を出して元気になる】 不定期 講師 加藤純子

ちよつとながめの

編集後記

境内の北、一番街通りに面したところに、伝道掲示板があります。以前は、寺の正面にもあったのですが、山門ができ、場所がなくなって今は一カ所です。墓地にもあったのですが、整備後、適当な場所が見つからず、今はありません。近いうちに再建して無縁化している墓所のお知らせに使う予定です。

境内にある掲示板では一か月にひとつの言葉を紹介しています。経典からの引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。伝道掲示板の言葉の解説は、松岩寺ホームページで読むことが出来ます。

九月のことばは、
「仏教のご利益は、思いがけない幸運のことではなく、逆境に向き合ったときにその苦難を受け止める力を持てることである」

浄土真宗の藤野宗城師のことばです。藤野師は節団説経の名人です。日経新聞の今夏八月八日の朝刊文化欄からの引用ですから、お読みになった方もおられるでしょう。記事のタイトルは、「節談説経で聴衆沸かす」。

記事によれば「浄土真宗には節談説経というものがある。法話の中にリズムミカルに節回しを織り込んだもので、（途中略）落語のルーツともいわれ、語りの部分は講談に、節の部分は浪曲

に発展したとも」とあります。「笑い話や涙を誘

う物語などを取り合わせ、起伏に富んだ語りをするのが節談」とも記事は説明しています。残念ながら、私は実際に聞いたことはないのです

が、だいたい想像できます、

昨年亡くなった俳優の小沢昭一氏の著作・録音などの労作が、忘れていた説経と芸能の関係を思い出させてくれた最初ではないでしょうか。昨秋の彼岸に、松岩寺の本堂で口演してくれた片山秀光師が、「節語り説法」と称しているのも、伝統的な「節談説経」を意識してのことでしょう。

臨済宗にも、昭和二十年代までは、節談説経をなさる方もおられたようです。亡くなった師父が、本山主催の法話の講習会に出た時、節にのせて説経をした方がいて、講習会の監督をされていた松原泰道師は、

「芸能ではない、現代的な法話をしよう」と、いさめたという話を聞いたことがあります。

さて、今秋の彼岸法要後はお寺寄席と称して、柳家さん喬師匠の落語です。以前も本堂で落語をした事がありますが、今回は落語界の大ベテラン。

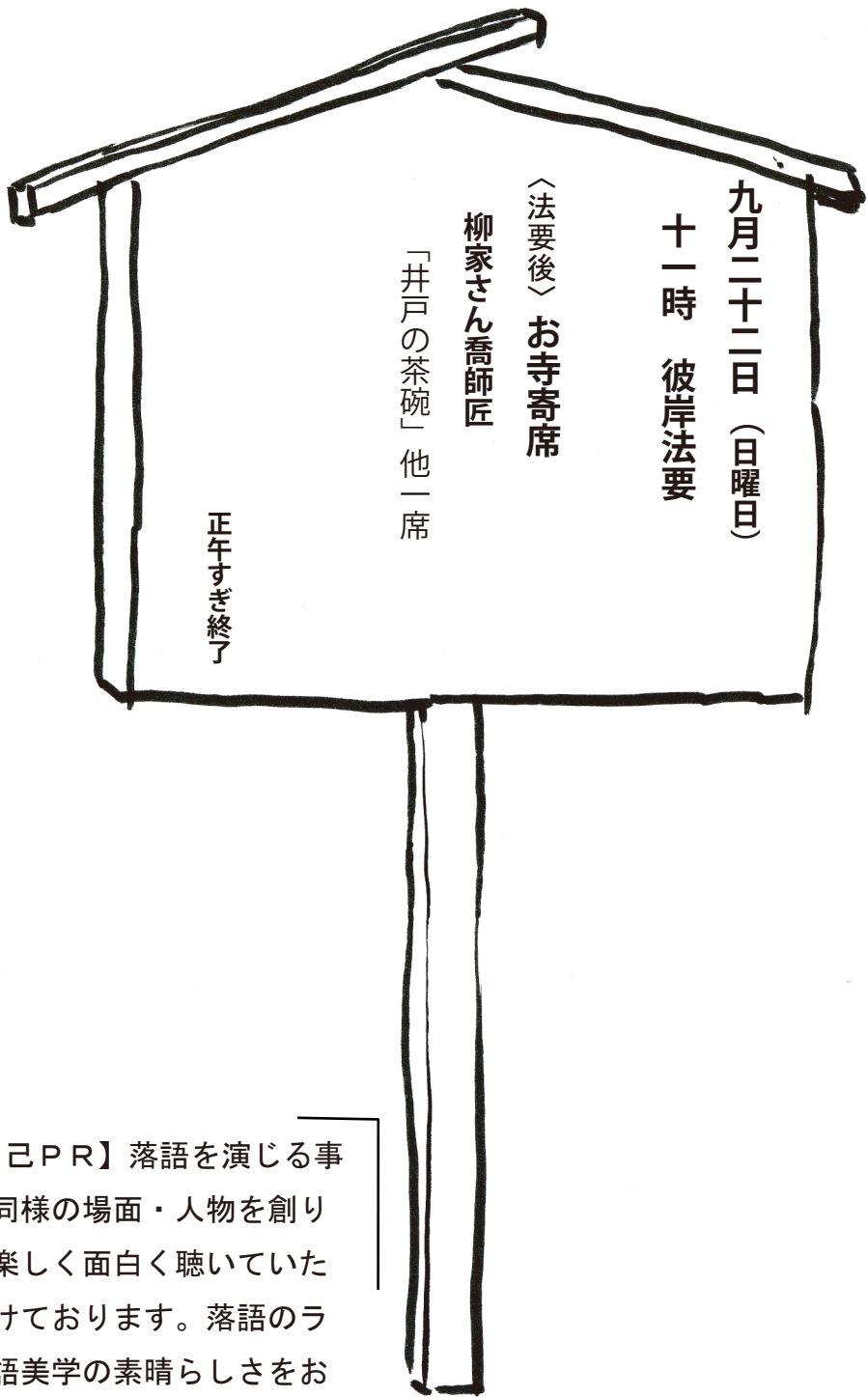
寄席やホールの落語もよいけれど、落語のルーツは仏教の説経なのだから、本堂でよく落語は格別です。広辞苑で寄席を調べると「人寄せ席」とありました。ご家族で、寄つてらっしゃい、見てらっしゃい！ 博芳記

平成二十五年秋彼岸

発行 花岡博芳

松岩寺だより

昼食に粗飯をご用意いたします。ご出席の方は電話・FAX等でご連絡ください。



9月20日（金）から23日（月＝秋分の日）まで、
墓地ではお花とお線香を用意しています。

【柳家さん喬師匠自己PR】落語を演じる事により、お客様と同様の場面・人物を創り上げそれを、より楽しく面白く聴いていただけるように心がけております。落語のライブの楽しさと落語美学の素晴らしさをお客様と共有出来るような噺家でありたいと思っております。